フットサルの普及法について

鈴木　崇直　（生涯スポーツ学科　地域スポーツコース）
指導教員　金森　雅夫

キーワード：フットサル，普及法，「観る」スポーツ

1.　緒言

現在，日本では FIFA ワールドカップをきっかけに，サッカーの普及が急速に進んでいて，いまやサッカーの人気は絶大である．

しかし，サッカーと比べフットサルの人気はまだまだである．レジャースポーツとして普及しつつあるが，プロフットサルリーグやフットサル日本代表の国際試合では空席が目立つ．「観る」スポーツとして，なぜここまで差があるのだろうか．

そこで本研究では，競技系フットサルが「観るスポーツ」として普及・活性化していく方法を明らかにするっことを目的とし、フットサルの特性を踏まえ，フットサルの現状と課題を調査し、普及法を考察した．

2.　研究方法

1)　アンケート調査

調査対象は，フットサル経験者 50 人，未経験者 50 人の計 100 人を対象とし，フットサルに対する印象や価値観を調査した．

2)　既存研究分析

3.　研究結果と考察

フットサル未経験者に対しては，実際フットサルをプレーした人は少なく，フットサルの観戦に関しても，わずか少数であった．しかし，フットサルを観戦してみたい人が全体の 64%を占めており，フットサル経験者に対しての質問も 96%と高い数値が見られ、経験者・未経験者ともにフットサルへの興味・関心は高い．これは「金銭面」や「余暇時間」の問題があり，観戦できない人が多いと考察される．

フットサル経験者に対する「プレーの時期」に関する質問は，小学生の頃にプレーしていたという回答が多かった．既存研究にも，「フットサルは技術向上に適したトレーニング法であり，多くのサッカースクールで取り組まれている」という結果があり，フットサルはサッカーのトレーニング手段として定着しつつあるのかもしれない．

4.　今後の課題

フットサル経験者･未経験者共にフットサルに対する興味・関心は高いため，F リーグや国際試合の観戦価格を下げること，地域のフットサル施設でイベント行いフットサルの価値を理解してもらうこと，開催時間を変えることで観客数を増加させることができるだろう．

また，中学校以上の部活動にフットサルを導入し，競技者レベルも向上させることが必要である．そうすれば，より価値の高いフットサルを展開させることができ，フットサルも普及させていくことができるだろう．

5.　引用・参考文献

大西史晃（2010）「フットサル普及の現状と展望Ⅰ-Ⅲ」大阪教育大学紀要　第一号

田中博史（2004）「日本におけるフットサルの普及法に関する研究」体育研究所　43 (1)，7-13

中村恭平（2008）「フットサルクラブの八点に関する研究-府中アスレティック FC の F リーグ参入からトップクラブ定着へ-」早稲田大学大学院スポーツ科学研究所